

# 4. 事業の効果

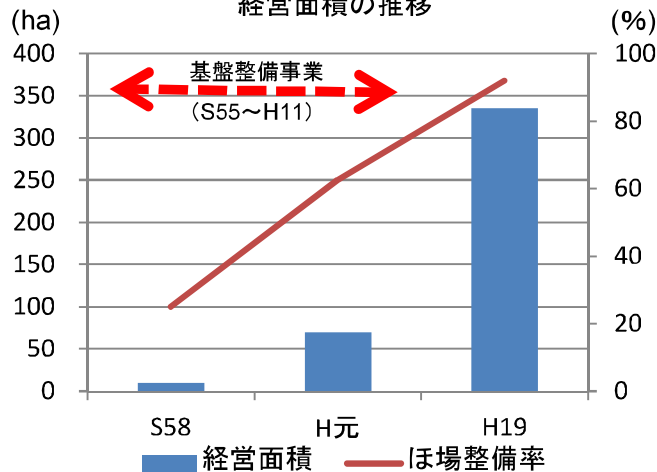
## (4) 国営事業を契機とした地域の展望①福江営農

- 福江営農は、昭和58年に設立され、当時は、10haの水田で営農活動を開始し、事業により1～2ha区画の大規模な汎用化水田の整備が進むと旧海津町の農地の2割に当たる335haに経営規模を拡大し、県下でも最大規模の経営を実現。
- 意欲的な経営に対し、農林水産祭で天皇杯を受賞するなど日本農業のトップランナーとして認められる団体となった。



有限会社福江営農

経営面積の推移



【農家の声】基盤整備のおかげで、経営規模の拡大を図ることが可能となった。



第46回農林水産祭で農産部門最高位の天皇杯を受賞



第36回日本農業賞の戸別経営の部で大賞を受賞



小麦の生産



大豆の生産

水田農業ビジョンに沿って、水稲－小麦－大豆の2年3作体系による栽培を行っている。その作付面積は、水稲167ha、小麦141ha、大豆155ha(平成19実績)に及ぶ。

## 4. 事業の効果

### (4) 国営事業を契機とした地域の展望②農産物のブランド化

○ 地域では、JAIにしみのブランドとして、様々な農産物のブランド化が図られている。



木曾三川米(ハツシモ)

日本でも一番の晩稲品種で、全国でも栽培は岐阜県だけで、収穫量が少なく「幻のお米」ともいわれている。



西美濃産米粉

特殊な製粉機を使い、「ハツシモ」を100%。平均粒径が約90ミクロンの、従来の米粉にない細かな粒子



海津っ子(トマト)

農薬に頼らない「安全・安心・健康なトマト」の栽培技術を導入。平成17年4月から、新しい愛称・シンボルマークが入った出荷箱で出荷してアピール



濃姫(いちご)

甘みが強くて大粒で口どけがよいので生食用として人気を集め、岐阜県では、この「濃姫」が全体の66%で栽培、にしみの管内はその43%を担う



岐阜海津メロン

出荷されるメロンの品種は、マスクメロン「アールスナイト」で糖度14以上のものしか出荷しない、こだわりのメロン。県内メロン出荷量に対し49%のシェアを誇る

JAIにしみのブランド農作物

## 5. 地域活動の状況

○ 本地域では、農業生産活動だけでなく、地域ぐるみで様々な活動が活発に行われている。

① 地区内集落の55% (72集落中40集落) が農地・水・環境保全向上活動に参加

② 苦難の歴史を伝えるために、地域に復元された「堀田」で、小学生を対象に田植え・稲刈り体験を実施



① 給水栓の分解清掃作業



① パイプラインの清掃作業



① 排水路の藻の除去作業



② 堀田での田植え体験  
(地元小学生を対象に  
海津市歴史民俗資料館にて)



② 堀田での稲刈り体験  
(地元小学生を対象に  
海津市歴史民俗資料館にて)

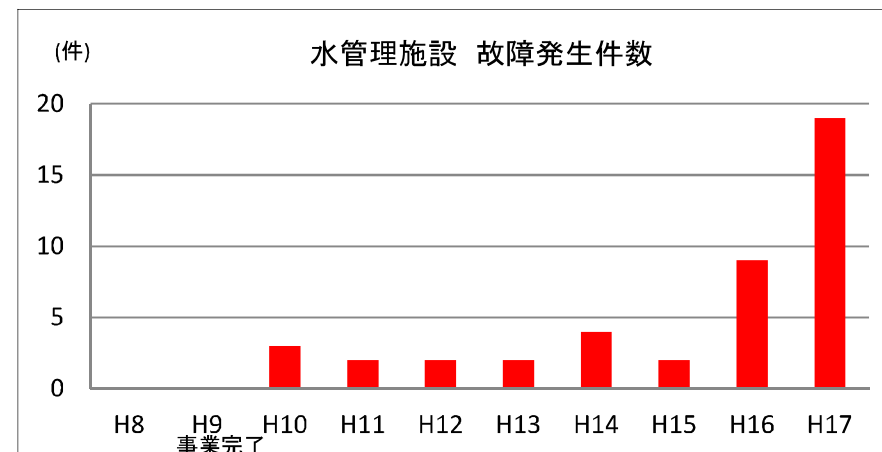
## 6. 地区が抱える課題と対応

○本地区は、県下の農業地域に成長したものの、それを支える農業水利施設の老朽化が進行している。

①施設は、造成後15年～27年が経過し、ひび割れ、摩耗、発錆等の劣化が進行。

②水管理施設は、耐用年数を超過しており、故障発生が増加傾向にある。また、交換部品の入手も困難な状況。

○このことから、今後、既存農業水利施設の予防保全対策(施設の劣化が致命的な状況になる以前に適切な補修・補強等の対策を取ることで、効率的な既存施設ストックの有効利用)を検討し、ライフサイクルコストの低減を図ることが必要となっている。



農業水利施設の戦略的保全管理を推進する必要